

栄養教諭を中核とした食育推進事業 事業結果報告書

都道府県名	奈良県
推進地域名 (再委託先)	吉野町 桜井市 生駒市 葛城市

1 事業推進の体制

実践中心校	生駒市立生駒台小学校・桜井市立桜井中学校・葛城市立新庄小学校 吉野町立吉野小学校
協力校	
関係機関	生駒市学校給食センター・桜井市学校給食センター・葛城市新庄学校給食センター、 県立教育研究所、奈良県学校保健会

2 各都道府県教育委員会の取組

(1) 食育の方針（取組内容）

<ul style="list-style-type: none"> ○研修会等をとおして、教職員が食育の重要性への理解を深めるとともに食育に関する指導力を向上させることで食育の充実を図る。 ○新規採用栄養教諭を支援し、配置校及びその地域の食育の充実を図るとともにゲストティーチャーと協力し学校・家庭・地域の連携を図る。 ○全国大会の奈良県発表校の実践を支援し、実践地域の取り組みを全国に発信する。

(2) 実践推進地域への指導・支援内容等

<ul style="list-style-type: none"> ○実践校における学校食育推進委員会への参画及び食育研修会講師紹介等企画運営協力。 ○新規採用の栄養教諭配置校への訪問指導（食に関する指導実践、年間指導計画の作成における助言、学校給食献立計画への助言等）及び食育に関する研究授業の指導助言。

3 具体的な取組等について

テーマ1	学校における食に関する指導の充実について
評価指標	各種研修会への参加者数の増加 学校における食育の取り組みの充実
効果	教職員対象の研修会への参加者数は前年度より増加している。 学校における食育推進委員会等の設置率（小学校 H24 77.7%→H25 77.8% 中学校 H24 58.1%→H25 60.0%） 学校における職に関する指導の実施回数の増加
（取組状況） <ul style="list-style-type: none"> ○栄養教諭・学校栄養職員対象研修会開催 6月14日 栄養教諭・学校栄養職員研修会開催 参加者数 110名 内容：栄養教諭・学校栄養職員のスキルアップ 効果的な掲示資料の作成 講師 山田 小夜子氏 学校給食管理（献立、衛生管理等）について ○県立教育研究所と連携した研修会の開催 7月23日 食育推進研修講座 参加者数 40名 内容：食に関する指導実践発表 効果的な指導について 講師 天理大学 上田 喜彦氏 8月20日 栄養教諭・学校栄養職員研修講座（1回目）参加者数 30名 内容：食育コーディネーターとしての栄養教諭・学校栄養職員の役割 講師 京都市教育委員会 尾松 廣明氏 10月22日 栄養教諭・学校栄養職員研修講座（2回目）参加者数 30名 内容：食に関する指導の実際 講師：県立教育研究所 宮田 有子氏 	

○食育担当者対象研修会開催

- 8月22日 食育講演会 参加者数 180名
 「弁当の日で何が育つか」講師 弁当の日提唱者 竹下和男氏
- 1月10日 栄養教諭・学校栄養職員研修会 参加者数 93名
 「食育指導者養成研修参加報告」 下市町立下市小学校 栄養教諭 水分泰代
 ・道徳における食に関する指導の実践について
- 1月23日 食育担当者研修会（奈良県学校保健会・奈良県医師会共催事業）
 参加者数 90名
 ・学校における食育の取り組みについて 県教育委員会事務局保健体育課
 ・学校における実践報告 香芝市立二上小学校 栄養教諭 廣川 伊希子

○実践校における取組

- 生駒市立生駒台小学校 学校保健食育推進委員会
 「子どもの生活習慣と心身の健康～食育の視点から～」
 近畿大学 助教 明神千穂氏 参加者：教職員及び保護者
- 桜井市食育研修会 参加者：桜井市教職員
 「食に関する現代的課題～食物アレルギーについて～」

テーマ2	学校と家庭、地域との連携による食に関する指導の充実について
評価指標	わくわく学びフェスタの参加者数の増加 各実践校における食育活動への参加者数の増加
効果	地域住民（幼児・児童および保護者等）への啓発 食に関わる体験ゲーム等をとおして、子供たちの食に関する関心を高めた。

（取組状況）

- 教育研究において、10月に開催されたわくわく学びフェスタにおいて、食育ブースを運営した。ブースでは食育に関するパネルを展示し、学校における食育について啓発した。また、食に関するゲーム（豆つかみゲーム・食べものつりゲーム・はてなボックス）を実施し栄養教諭・学校栄養職員がスタッフとして積極的に運営し携わった。小さな子供たちが楽しく積極的に参加し、親子で食育に興味を持つ良い機会となっている。
- 教育委員会ホームページの活用：ホームページに奈良県の郷土料理について毎月掲載し、広報した。
- 実践校における親子料理教室（指導者 栄養教諭）、ゲストティーチャーによる郷土料理調理学習
- ・吉野町親子料理教室：テーマ充実した朝食摂取
「簡単でおいしい朝食メニュー」
 - ・生駒台小学校料理教室：健康によい食事
「まごはやさしい」健康によいとされる食材を積極的に組み入れた料理について実習し健康によい食事の実践につなげる。
 - ・生駒市学校給食センターでは、夏休みに親子体験学習として給食センターで実際に100人程度のカレー作りに挑戦する取り組みが実施された。給食センターの職員とともに、給食への理解を深めてもらうことができるとともに、調理員さんの苦勞の一端が体験できる貴重な機会となっている。



生駒市
給食センターにおける
調理体験学習の様子

・新庄小学校郷土料理実習

地域の郷土料理継承者をゲストティーチャーに招き、家庭科の授業の一環として実施。郷土料理についての授業と、かつおと昆布からとる出汁を体験し、「奈良のっぺ」を実習した。子供たちのあまり好まない材料を使用した「奈良のっぺ」（大根・人参・厚揚げ・しいたけ・小芋こんにゃく）だが、しっかりした出汁をとり、じっくり煮込むことで、おいしく仕上がることを理解した。レシピを家庭へ持ち帰り各家庭で継承して行ってほしい。地域の方をゲストティーチャーに迎え、教えていただくことで、普段の授業とはちがった雰囲気の中で学習することができ、食べ物や料理、奈良の文化への関心が高まった。



新庄小学校
体験学習の様子

テーマ1～2に共通する取組

評価指標	栄養教諭による授業参画数の増加
効果	栄養教諭の授業力が向上した。 栄養教諭の関わりが増し、児童生徒の食への関心が向上した。 教職員が食への関心を高め、食育に取り組む姿勢が強まった。
<p>(取組状況)</p> <p>食育推進事業を受けるにあたり、栄養教諭による食に関する授業計画の提出をもとめ、計画的に授業に参画するよう進めた。</p> <p>家庭科、生活科など関係教科における TT 授業及び特別活動における指導など栄養教諭が指導に参画した。</p> <p>指導内容、授業計画、指導案については随時訪問指導を実施した。</p> <p>○新規採用者の事業時数 3校平均 年間 35 時間</p> <p>※実践校の取り組みについては、実績報告書により報告</p>	

4 事業全体を通じて、特に効果のあった方策等について

- 本事業を活用し専門家による講演会等を実施することで、指導者の意識を高める事ができた。また、実践校における取組を地域で共有することで、実践校を含む地域連携が強くなった。
- 新規採用栄養教諭配置校を実践校とすることで、学校での食育が活性化した。また、教職員間に栄養教諭の職務への認識を高めることができた。
- 事務局担当者が学校訪問し、指導助言することで学校長をはじめとする教職員の栄養教諭への理解が進んだ。また、直接指導することで、いろいろな相談を受けることができ、新規採用栄養教諭の戸惑いを軽減させることができた。
- 指導計画に沿った授業への参画をうながし、授業を重ねることで、実践への意欲を高めることができ、指導力が向上した。
- わくわく学びフェスタに参加し、食育ブースを開設することで、保護者への啓発活動が積極的に行える。また、食育はたのしいことという認識を持ってもらうことができた。
- ゲストティーチャーを活用することで、地域とのつながりができ、次年度以降についても協力を得られる体制が整った。

5 各都道府県教育委員会における事業成果の活用について

- 実践地域（吉野町）の取組について、今年度開催した第 54 回全国栄養教諭・学校栄養職員研究大会の全体会で報告し、奈良県における食育について発信した。
- 実践校の取り組みを報告書にまとめ、今後研修会等で実践内容について紹介しながら、効果的な食育の取り組みについて情報提供していく。
- 各学校における食育の充実を図るため、指導者用の指導資料を作成した。
「食育教材資料集」小学校・中学校・高等学校へ配布した。

6 今後の課題（今回の事業により新たに見えた課題など）

- 本事業を活用し食育推進研修会事業に取り組み5年が経過し、学校における食育の取り組みが定着しつつある中、食育関連研修会への参加者が増加しない。
教職員の研修については、新たな内容や方法を検討する必要がある。
- 実践校を中心に食育に取り組む中で、朝食欠食者の減少、家庭の意識の向上、食事の内容の充実など、食にかかわる実態が徐々にではあるが改善されている。しかし、一部に朝食欠食者が固定化している現状がある。家庭への働きかけが重要。しかし家庭の中へは、なかなか踏み込むことができず、子どもたちに生きる力の育成が求められる。
また、県全体でも、朝食摂取率は上昇している。しかし、食事内容をみると、バランスよい朝食を摂取している割合が少ない。これまで以上に家庭への啓発に取り組み、朝食に野菜を摂取する頻度を増やすなど改善が必要である。
このような中、学校においては、食育だより等の啓発資料だけでなく、保健所等地域の関係機関と連携した指導の充実が必要と考える。
- 学校における栄養教諭の職務内容では、給食管理が外せないため、1市町村1名の栄養教諭・学校栄養職員では、指導内容の検討や指導にかかる時間が十分確保できない現状がある。少しでも改善するために、県内栄養教諭等が連携を深め、食育の教材等共有化や情報交換しながら効率的に推進しきよう働きかけたい。
- 学校における食育が全教職員で主体的に実施できるよう、全体計画や年間指導計画の事例を紹介するとともに指導に当たってはこれまでから作成配布している教材を十分活用するよう啓発が必要である。